



プロフィール

大分市出身。1972年1月23日生まれ。日本工学院専門学校放送芸術科を卒業後、テレビドラマの演出補を経て多くの作品の演出を手がける。

（主な作品）

ドラマ:TBS「白夜行」(2006年)、TBS「ROOKIES」(2008年)、TBS「JIN-仁-」(2009年・2011年)、TBS「とんび」(2013年)、TBS「天皇の料理番」(2015年)、TBS「義母と娘のブルース」(2018年)、TBS「天国と地獄～サイコな二人～」(2021年)など。

映画:「そのときは彼によろしく」(2007年)、「ROOKIES～卒業～」(2009年)、「ツナグ」(2012年)、「僕だけがいない街」(2016年)、「約束のネバーランド」(2020年)、「耳をすませば」(2022年)など。

近年はNetflix「御手洗家、炎上する」、テレビ朝日「マルス-ゼロの革命-」、フジテレビ「366日」、TBS「義母と娘のブルース FINAL」などを監督。

2024年11月 大分市魅力発信アンバサダー就任



「デイズ～かけがえのない日々～」はJ:COMチャンネル大分にて1月1日(木)午後9時～放送予定。



回遊劇場 w@nder展示作品 ザ・キャビンカンパニー「キメラブネ」

—— 大分市の魅力発信についてはいかがですか？

市長 大分市の魅力は観光、歴史、文化、産業、スポーツ、芸術など多岐にわたります。そこで、より広くPRするために、自ら情熱をもって「大分の魅力を発信したい」と思っていただけの方々を「大分市魅力発信アンバサダー」として委嘱し、幅広い分野での情報発信にご協力いただいている。



大分市長
足立 信也

私が議長、市の職員などが単独で情報を発信しても訴求力には限界がありますが、現在8名と1団体のアンバサダーにご自身のフィールドで情報発信(SNS、ブログ、メディア出演など)をしていただいている。反応してくれるファンの方や、さらにその先にいる方への発信につながっていくことを期待しています。

平川 ムーブメントを起こすのはとても難しいことなので、あらゆるジャンルで一人でも多くの方々に発信を委ねるというのは、本当に良い方法ですね。

市長 県庁所在地である大分市の使命は、大分市単独

の発展ではなく、近隣市域との連携で大分県全体が発展維持できる環境をつくることです。県外から訪れる観光客にとって大分県といえば別府・湯布院のイメージが強いと思いますが、その方に一歩足を伸ばして大分市に来ていただければ、大分市だけでなく県下の情報を入手することができる仕組み作りをしていきたいと考えています。

議長 私は会議などでさまざまな都市を訪問しますが、それぞれの地域における特徴や強みを生かした魅力の創出、情報発信を行っていると感じています。また、状況に応じて関係自治体などと連携し、広域的な取り組みを行っている都市ほど成長が著しいという印象です。

—— 大分の豊富な地域資源の活用について教えてください。

市長 大分市では、文化・芸術のもつ創造性を産業振興や地域活性化に活かすことを目的にしたまちづくり事業を行っています。その一環として、大分市の中心部を舞台に3年に一度、アートフェスティバルを開催しています。令和7年は「回遊劇場 w@nder」と題して「おおいた夢色音楽祭」ともコラボレーションしました。期間中は「デイズ」も上映され、多くの方々に楽しんでいただけたようです。

また、アーティストと、その発表の場(スポット)のマッチングを促進する「アーティストバンク推進事業」に取り組み、令和6年から専用ウェブサイト「PORT (PORT/港とART/芸術を組み合わせた造語)」を運営しており、多くの市民の皆さんに活用していただいております。

議長 大分市議会では、令和6年12月に移住・定住の取り組みについて市長に政策提言を行いました。若者が大分を離れるケースが非常に多い中、若年層が魅力を感じるようなイベント開催をはじめ、学びの場や就職先の充実など、若者の定住につながる取り組みを市と市議会が団結して推進できればと思っています。

市長 大分市は製造品出荷額等が九州1位ですが、一方で県民1人当たりの二酸化炭素排出量が全国1位もあります。このことは若者に限らずほとんどの市民の皆さんには知らないというのが現実です。そこで、普段は入れない場所を海から眺める「工場夜景クルーズ」として、ものづくりの現場と脱炭素に対する各企業の取り組みを知りたいとツアーワークを行っています。令和7年には『おおいた「夢」花火』にあわせた運行も実施し、大変な盛り上がりを見せました。

また、若者を中心に入気を集めるアーバンスポーツ(スケートボード、3x3、BMX、パルクール、ブレイキンなど街なかの空間を生かして行われる都市型スポーツ)の振興にも力を入れています。令和7年は九州規模のスケートボード大会を開催したほか、大手公園にスケートボードパークを、南大分スポーツパークに3人制バスケットボール3x3コート2面を整備することとしました。



大分市議会議長
田島 寛信

「ひと」を大事に

—— 監督は、作品を制作する際に人との関わりをどのように考えていますか？また、市原さんや大分市出身の財前直見さんの他に、約700人の応募の中から選ばれた一般の方々もいらっしゃいましたが、出演者やスタッフの皆さんとの関わりの中で印象に残っていることはありますか？

平川 製作する際にもっと大切にしているのは「作品を見てくれる人のために作る」ということ。それを製作陣の皆で共有し、たくさんの人に届けたいと思っています。

約700人の方々はそれぞれの想いがあってキャストのオーディションに応募してくださいました。大勢の



オーディションの様子

方々と向き合う大変さはありました、書類審査から真摯に向き合い、本当に貴重な体験をさせてもらえたと思っています。

大分で演技をする場というのが多くないと思いますが、これをきっかけに「お芝居をやりたい」「ドラマや映画を作りたい」という人が増えれば、大分から全国へと発信する環境がさらに充実していくのではないのでしょうか。

—— 市政運営を行う上で、市長と議長は人との関わりについてどうお考えですか？

市長 大分市の人口は平成28年をピークに減少を続け、地域コミュニティの衰退や経済活動の縮小など、都市の活力低下を招く問題への対応を迫られています。日常生活や将来の見通しに不安を感じる方が増加する中、「ひとが真ん中。」を基本方針に「ひとを守る」「ひとを育む」「ひとを支える」「ひとを豊かに」「ひとを元気に」の5つを柱として、より良いまちづくりを目指しています。その指針として令和7年に新たな大分市総合計画「未来へつなぐおおいたビジョン2034」を策定し、誰もが身体的、精神的、そして社会的に満たされ、幸せを実感できる「ウェルビーイング」な社会の実現に向けて各種施策を推進しています。

議長 大分市議会でも「(仮称)人とひとがつながる大分市条例」の制定を目指し、調査研究を行っています。人口減少や少子高齢化の進展、単身世帯の増加、地域コミュニティの衰退などにより、人とひとのつながりが希薄になっている中、地域の方々が支え合い、幸せを実感できるような条例を作りたいと考えています。

平川 以前から映画製作の過程で「優しい人が増えてほしい」「普段嫌なことや悲しいこと、苦しいことが多いても、映画を見ることで少しでも癒されてほしい」「より良い成長につなげてほしい」と思いながら作品を作っていました。そういう想いを込めた「デイズ」は動画配信サービスで世界に配信されます。大分から世界へ、より良い未来の形へとつながるきっかけになれれば素敵だなと思っています。

—— 市長、最後にまとめをお願いします。

市長 全編大分市ロケの「デイズ」は、監督の強い意思の表れだと感じました。映画を見た皆さんも、ふるさと大分の良さを再認識し、その場所に行きたいという気持ちが蘇ってきたのではないか。人口減少社会の中で人と地域のコミュニティは衰退の一途ですが、コミュニティの場を求める気持ちは確かにあります。個々を尊重し、世代を超えて、皆さんも一緒にふるさとのより良い未来づくりに取り組んでいきましょう。